

第5章 基本方針

1 整備の意義

丘珠縄文遺跡は、約 25,000 m²と市内最大級の広がりを持ち、札幌の低地部に立地する縄文晩期の多層遺跡であり、広い範囲で良好に保存されている遺跡からは、当時の河川によって形成されたと考えられる自然堤防上から、炉跡や土器・石器などが集中して発見され、炉跡の土壌からは、サケ科を主体とした魚骨片、チョウザメ科の鱗板片、動物（哺乳綱）の骨片、クルミ属の内果皮片、ヒエ属の種子等、当時の生業や食生活を考える上で貴重な資料が見つかっています。

このような内容を示す丘珠縄文遺跡は、札幌の低地部を利用した狩猟・漁撈・採集等の季節的な生業活動が繰り返されることによって形成された遺跡と考えられ、縄文晩期から続縄文文化、擦文文化へと展開する札幌低地における生業形態の原形を示し、縄文文化から続く札幌の歴史を示す象徴的な遺跡のひとつと評価されます。

また、丘珠縄文遺跡からは、炉跡が重なるように発見され、炉跡の周囲から遺物が累積して出土していることから、細かい時期的な変遷を捉え、低地部の微高地上で繰り返された具体的な土地利用のあり方を解明し得る、学術的にも魅力的な遺跡と言えます。

この遺跡を活用して、豊かな地形環境に適応していった札幌の縄文文化の魅力を発信し、「食文化」をはじめとする縄文文化を体感できる場を創出します。

2 遺跡公園の位置付け

札幌市では、埋蔵文化財の調査・研究、資料の収集・整理・保存・活用、知識の普及等を行う拠点施設として埋蔵文化財センターを設置していることから、整備する遺跡公園については、丘珠縄文遺跡を活かして札幌の縄文遺跡の魅力を発信する活用機能に特化した体験型の施設を目指します。

また、札幌市の公共施設として、幅広い世代や立場の方々が利用しやすい遺跡公園を目指すとともに、市内外の小中学生の校外学習や高校生・大学生の学習等に利用できる遺跡公園、サッポロさとらんど等との連携により観光客が札幌の魅力にふれることができる遺跡公園を目指していきます。

主な利用者像：市民、市内外の小中学生（校外学習等）、観光客

3 遺跡公園のテーマ

札幌には豊かな地形環境に適応した縄文遺跡が残されています。その中でも、川辺に広がる微高地上に形成された丘珠縄文遺跡は、周辺の豊かな環境を活かした縄文の「食文化」を感じることができる遺跡であり、札幌の低地部における縄文晩期から続縄文文化、擦文文化へと展開する生業形態の原形を示す、象徴的な遺跡と言えます。

そこで、丘珠縄文遺跡を活用した遺跡公園のテーマは、次のとおりとします。

『川辺に広がる札幌の縄文、その「食文化」をはじめとする縄文の体感』

4 整備の基本方針

上記のテーマに基づき、歴史的・文化的・教育的資産として遺跡を有効に活用することで、市民自らが作り上げる多彩な文化活動を振興していくために、次の4つの方針に則った整備を目指します。

なお、整備にあたっては、サッポロさとらんど内の施設と連携し、サッポロさとらんど全体の魅力アップを目指していきます。

- (1) 札幌の縄文遺跡の魅力発信に向けた丘珠縄文遺跡の整備
- (2) 縄文文化の体験と学びの展開
- (3) 市民との協働による遺跡の活用
- (4) 「学び」のネットワークづくりと市民交流の場の創出

5 整備の方向性

基本方針に基づく整備の方向性は、次のとおりとします。

(1) 札幌の縄文遺跡の魅力発信に向けた丘珠縄文遺跡の整備

① 「札幌の縄文」を発信します

縄文文化からアイヌ文化期を通じ、札幌の歴史のつながりを踏まえ、縄文文化の魅力を感じることができるよう、札幌の縄文遺跡の情報を発信します。

② 縄文遺跡である丘珠縄文遺跡を適切に保存するとともに、遺跡の価値を継続的に探求・発信します

発掘調査の成果を踏まえ、縄文遺跡である丘珠縄文遺跡を適切に保存するとともに、市民との協働により継続的な調査・研究を行い、遺跡の価値を探求し、発信していきます。

(2) 縄文文化の体験と学びの展開

① 縄文文化を体験できる活動を展開します

子どもから大人まで楽しみながら参加できる丘珠縄文遺跡を活かした縄文の「食文化」をはじめとする縄文体験活動を展開し、市民との協働で発展させていきます。

② 縄文文化の学びの導入としてガイダンス施設を設置します

発掘調査の成果に基づき、丘珠縄文遺跡を活用して、札幌の縄文遺跡を学ぶ導入として、ガイダンス施設を設置します。

(3) 市民との協働による遺跡の活用

① 遺跡の整備と活用・運営を市民との協働で進めます

市民参加による整備を進めるとともに、ガイダンス施設を拠点とした体験・学びなど、活用・運営を市民ボランティアとともに考えていきます。

② 地域に根ざした施設づくりを目指します

地域の歴史的・文化的資産として、地域の方々と連携し、施設の活用を考えていきます。

(4) 「学び」のネットワークづくりと市民交流の場の創出

① 「学び」のネットワークづくりを進めます

サッポロさとらんどやモエレ沼公園など、近隣の文化施設と連携し、地域の歴史や文化にふれることができるネットワークづくりを進めるとともに、縄文文化を中心に札幌の遺跡を学ぶことができるネットワークづくりも目指していきます。

② 市民交流の場を創出します

サッポロさとらんどと連携し、市内中心部からのアクセス等の利便性を検討し、市民交流の場を創出するとともに、体験活動ができる観光資源としての活用も目指していきます。